



光が丘地区では、療育センター陽光園、陽光台保育園など子どもに関する地区内の公共施設の多くが築40年以上を経過しており、建て替えを検討する時期となっています。その中で今後閉校予定の青葉小学校の学校跡施設を「避難所としても使える、子どもや地域の活動の場」を基本とした利活用を検討することを目的に、昨年度の市民対話ワークショップを踏まえて、全4回の市民検討会を行いました。

2月19日に第4回市民検討会を開催しました！

第4回市民検討会は「市民検討会の成果をまとめよう！」をテーマに行いました



## ワークの内容

### ワーク：テーマごとの成果を共有して、磨きをかける

#### ◎今回の目標

- ・学生が作成したイメージ図をチームで見てください。
- ・他のチームのイメージ図を見て、意見を出しましょう。
- ・管理運営についても考えてみましょう。

#### 【各チームのテーマと付せんカラー】

体育館チーム

→体育館・プール  
・なかよし広場

校庭チーム

→校庭・くすの木  
周辺・ピオトープ

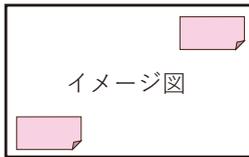
くすのきチーム

→市民活動で使用  
する諸室

#### グループワーク①

～担当テーマのイメージ図を見てみよう～

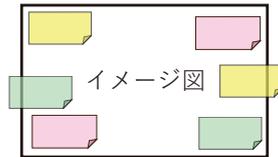
補足したい意見を書きましょう。  
管理運営についても考えてみましょう。



#### グループワーク②

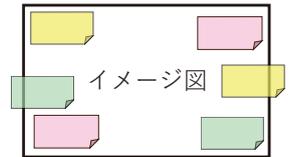
～他のチームのイメージ図を見てみよう～

他のチームのテーブルを周り、  
イメージ図を見て、意見や改善点を書きましょう。



#### 発表

- ・元のチームに戻り、他のチームから  
出た意見をチーム内で共有しましょう。
- ・他のチームに発表をしましょう。



くすのきチーム



校庭チーム

体育館チーム

# 第4回ワークの結果

校庭チーム

## 校庭チーム

校庭・くすの木周辺・  
ビオトープ

### 校庭全体



備品を置く場所

全体利用と部分利用を自由に変更できる

駐車場は芝生広場と共有タイプ

ゴミ処理のためのコンポストを置いて畑に利用

利用のための備品が必要

### イベント



キャンプなどのイベントで利用される

屋外のトイレ

水場の設置

水に入って遊べる場所

BBQができるところを売りにする

指定管理者で管理する

普段から火を使うことに慣れるイベントを

校庭全体に芝を植えて、一部をウッドデッキにした場所が欲しい

イベントの時に活用できるキッチンカーのスペース

### くすの木周辺



くすのき等を利用してイルミネーションを行う

静けさを活かしたい

ウッドデッキが良いな

小学校だったことが想像できないくらい、非日常を感じる

少しミーティングをするのに良い

青空テラスは皆の憩いの場に

自動販売機、普通のコーヒーとおいしいコーヒーの2種類あると嬉しい

ウッドデッキが素敵で利用したい

体育館脇のプールを駐車場にする場合には、陽光園・保育園の利用者が送迎に困らないような配慮が必要という、運営を考える上での大事な発言がありました。また、1つのイメージ図の中で、いくつかの時間帯や時期があることに気付き、それに応じた議論の整理をされていました。同じ場所を示しながら、絵の追加のアイデア、補足文章やキーワードとして残すべき大事なアイデアが抽出できたと思います。



讃岐先生

# 体育館チーム

体育館・プール・  
なかよし広場

他の駐車場との利用分担

夕方は保護者の利用優先

車道の拡幅を併せて整備する

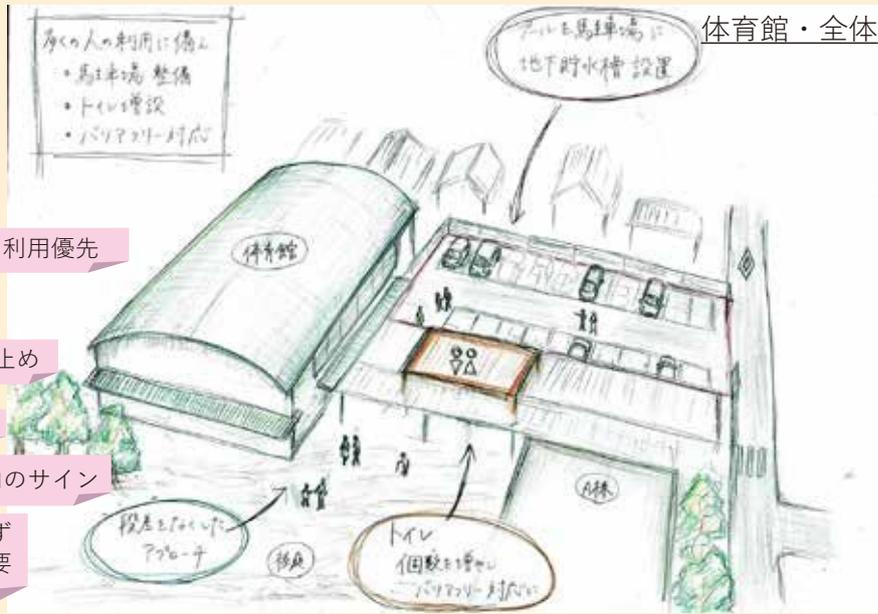
外側にも鏡

屋根付きの車止め

セキュリティと連携のバランス

色分けで道案内のサイン

一度に全てを実現させようとせず  
に保育園など必ず入る施設と必要  
な空間を優先する



体育館・全体

体育館チーム

誰でも使いやすい  
綺麗なトイレ

鏡の設置に賛成!

駐車場設備は  
費用と相談

青葉児童館との一体運営

備品の管理

使い方は自由だが  
出入りは管理する

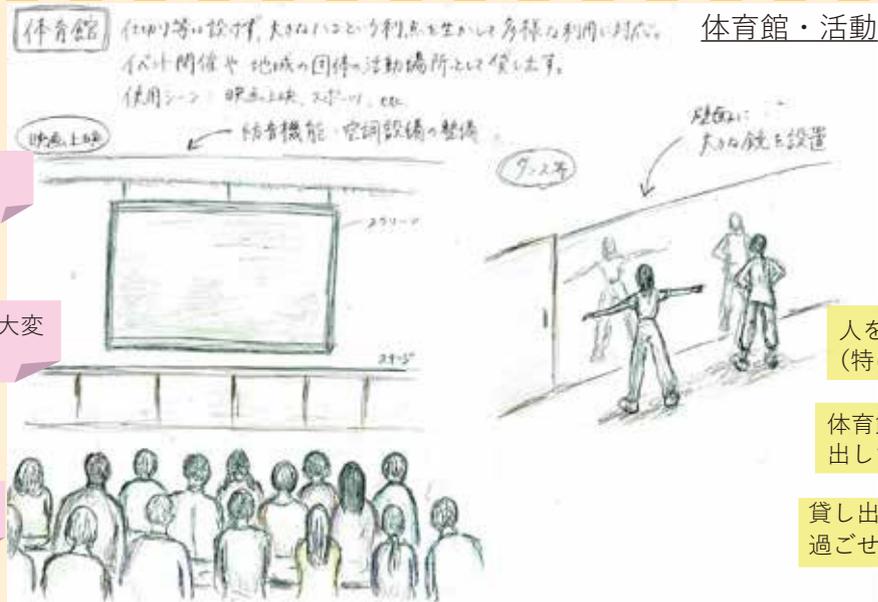
使い方・安全面の管理

椅子を一脚ずつ出すのは大変  
設置しやすく

使い方の検討

人・時間とその管理やルール

誰が管理するか  
公民館? 児童館?



体育館・活動

企業を誘致して  
スポーツなど

年代に合わせた遊具

人を定着させるしかけ  
(特に初期)

体育館を借りに来た人が取り  
出して気軽に使えるように

貸し出しのない日に楽しく  
過ごせる仕掛け

校庭・体育館との災害時の  
役割分担

平時は駐車場利用

隣地への配慮

普段は遊び場と  
して活用

災害時の利用の際、来る人の多さ  
に対してスペースが不足するのは

トイレは常設

モノは置きすぎず自由  
に使えるように

設備・装備の検討



なかよし広場

市民農園として利用

芝生であると魅力的

公民館の駐車場と  
一体利用

全体が駐車場が良いのでは

施設の管理運営について、単に金銭上の契約関係にするだけでなく、地域としてコミュニケーションをとるといふ力強い言葉がありました。

また、他のグループから頂いた意見と異なる視点による意見もあったことを踏まえ、検討会では決めきれずに残った論点があること(例えば管理について指定管理者に任せるのかボランティアで関わるのか、校庭利用の分け方をどうするか、など)を丁寧に整理して頂きました。



讃岐先生

# 諸室チーム

(くすのきチーム)

市民活動で使用する諸室

時間を区切りながら利用

人を多く集めるなら入口は複数あった方が良い

事務機能を担う空間が必要

仕切りがあると良い

公民館の図書室を少人数利用の防音室に

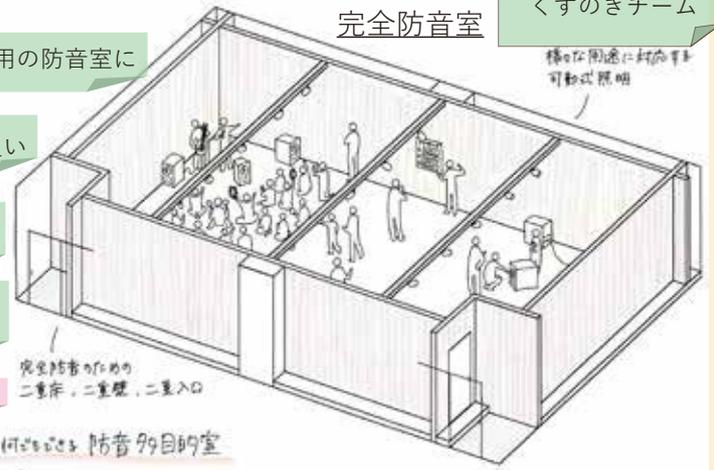
防音室に楽器があると良い

防音室に採光があったほうが良い

安全面として防犯カメラや外から見えるようにした方が良い

## 完全防音室

くすのきチーム



完全防音のための二重床、二重壁、二重入り口

## 何となく防音の目的室

プロジェクト室はプロジェクト室、呼び出し等、子どもたちも希望もつたための部屋

火を使うために専門家必要?

予約が必要な部屋といつでも使える部屋を明示して分かりやすく周知することが必要

子ども食堂の機能

フリーで食事できる室内場所があるとよい

校庭のBBQとのつながり

農園は保育園公民館等で共有

プロジェクターがあるのが良い

## 調理室・ランチルーム



プロジェクト室・調理室・ランチルーム

食器は洗濯できる、ゴミ箱、ゴミ入れ

大きなダイニングテーブル、椅子、テーブル、椅子、テーブル、椅子

食器の洗浄・乾燥機、コンロ

キッチン、調理室

どのように管理を行うか 管理は誰がするのか

市内の子育て広場を運営している団体に管理・運営をってもらう

将来地域の施設との関係をどうするのか

放課後教室はどう残すか

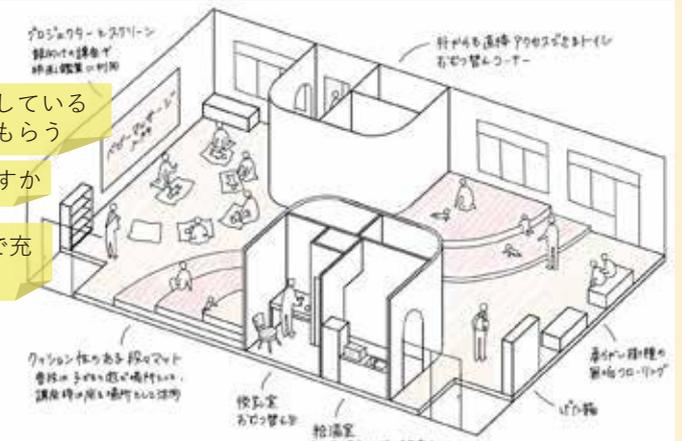
室内滑り台があると良い

子どもセンターとして公民館と分けると良いのか? 公民館とのコラボで充実を図る

授乳室にカーテンがあるとよい

子ども広場の前で夏はビニールプールを出したり、水遊びができると良い

利用者同士の情報コーナーがあると良い



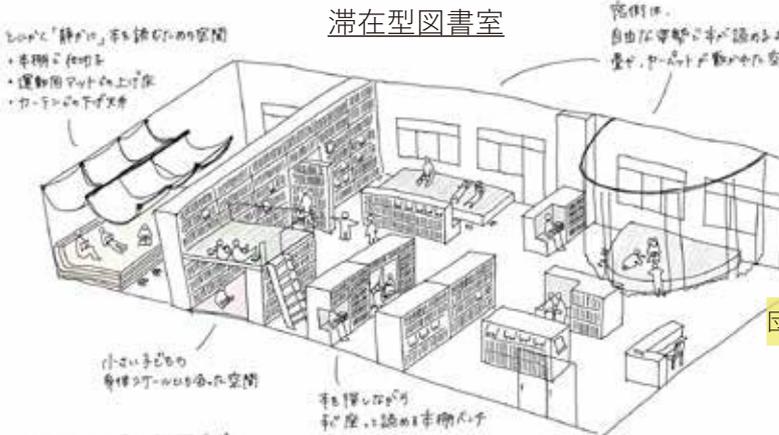
プロジェクト室・調理室・ランチルーム

子ども広場の滑り台、ブランコ、砂場

保育室・子育て広場

保育室・子育て広場

## 滞在型図書室



滞在型図書室の空間

読書スペース、自由な学習空間、読書スペース

勉強スペース

公民館の図書室と連携して運営

高齢者の利用場所

子どもだけに着目するのはもったいないのでは?

図書の貸し出しはどのように行うのか

団体のミニミニ事務室機能

PC・テーブル・椅子があっても良い

決まった機能がなく自由に過ごせる室内空間があると良い

無料塾ができると良い

保育園と地域で共有して多世代交流

最初から目的を決めず、形を変えていくというあり方がこの場所に求められるのではないかと、というメッセージがとても印象的でした。これは他のグループでも議論の中で出てきた意見だと思いますし、全体で共通する想いではないでしょうか。

また、公民館も同時に変わっていきなさい!という未来志向の素敵な言葉を頂きました。これは、青葉小学校単独ではない地域ぐるみの拠点形成にしていきたいという、光が丘地区らしい発想の表れだと思います。

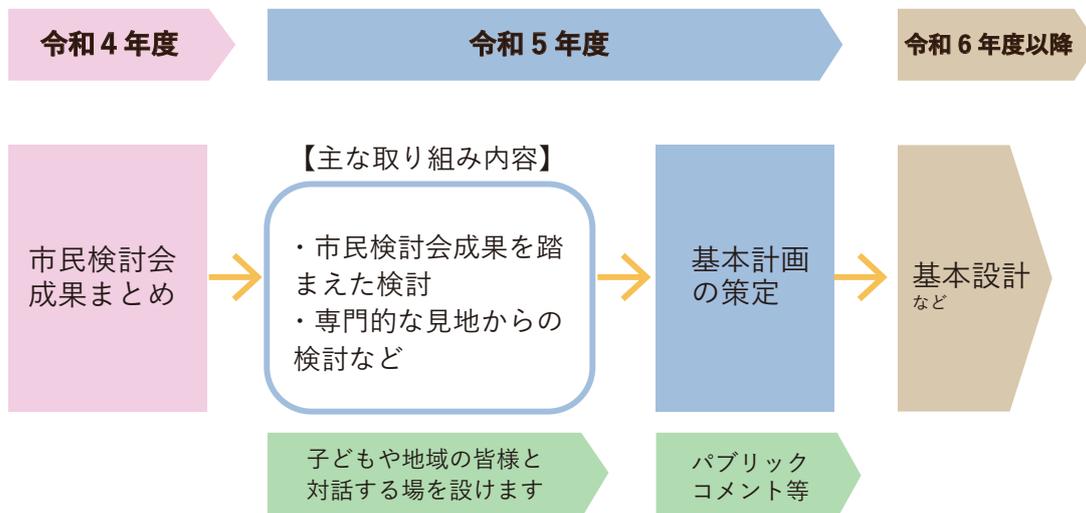


讀岐先生

# 今後の取り組みについて

市民検討会の成果を活用しながら、市として光が丘地区学校跡施設（青葉小学校）利活用基本計画をまとめます。

基本計画の策定に当たっては、専門的な見地と民間事業者からの意見等を踏まえた検討を行い、最終的に決定していきます。



## 讃岐先生



東京都立大学建築学科で助教を務める。専門は都市計画。多数の自治体で公共施設再編アドバイザーや市民ワークショップの講師を担っている

『最初から完成を目指さない、一つ一つのアイデアを実現しながら、光が丘地区らしい場をつくっていく』。このテーマは、昨年度のワークショップの最終回でみなさんと共有したものでした。こういった発想が今年度の市民検討会でも生かされたと考えています。そして、この発想は、2カ年を通じて得た一つの成果だと思えます。

やってみる、試してみるというのはとても大事なことです。光が丘地区には、イオンの移動販売を地域に来てもらうよう働きかけ、それを実現させた実績もあります。地域課題を自分たちで解決しようとする発想は、まさに「じぶんごと」にしようとする皆さんの姿勢の表れです。その延長で、この青葉小学校の将来の利活用をより生きたものとするために大切になるものが、皆さん一人一人の「関わり」です。これは、市民検討会への参画もそうですし、施設再整備の段階で想定されるまた別の情報共有の場、あるいは整備後の運営やイベント参画等、あらゆる場が想像できます。再編された未来のまち、再編後の公共施設を真に「市民のもの」とするためには、より一層の積極的な関わりが何より重要になっていきます。

昨年6月の相模原市の広報には、まちの中で公共施設がどう存在しているのか、どんな人と公共サービスを通じてつながっているのか、どんなあり方が望ましいのか、ということの説明するイメージ図が掲載されていました。単に、施設名や与えられた機能が表す通りにサービス提供するだけでなく、まちの中でどうあったら良いかを示すビジョンが描かれていたのです。このプロジェクトがこうしたビジョンを具体的に表す良い事例になるよう、ますます議論を深めてもらいたいと思います

～これまでの取組について～

相模原市ホームページ  
> トップページ  
> 中央区  
> 光が丘地区の公共施設再編に向けた取組



発行

第4号発行日：2023年3月31日  
作成：東京都立大学 学生スタッフ

発行：相模原市 こども・若者未来局 こども・若者政策課  
〒252-5277 相模原市中央区中央 2-11-15  
☎042-769-8315